

公務・公共サービスの最前線で働く誇りを胸に

「御苦勞様です 私達は何時も感謝の毎日です。コロナウイルスの感染が広がり お身体には十分お気を付けください。」4月22日昼、いつものようにごみの収集作業に従事していた職員が、ごみ袋に貼られていた手紙に気づいたそうです。他の地域からも同様の報告が寄せられています。

言うまでもなく自治体が担う公務・公共サービスは、住民が安心して日常生活を営む上で、欠かすことのできないライフラインです。前述のごみの収集作業は、衛生的な住環境を守るため一日たりとも滞らせることはできません。家庭から排出されたごみの中には、使用済みのマスクが多く含まれるようになりました。収集車がごみ袋を圧縮した際に、食べ物の残り汁が飛び散ることも日常茶飯事です。感染リスクに常にさらされ、不安を抱えながらも毎日の作業は続けられています。

手紙を見つけた職員は、「私たちの仕事は地道な作業だが、理解してくれている住民の方の激励は本当にうれしい。職員一丸となって厳しい現状に立ち向かいたい」と話しています。

医療現場の窮状も深刻です。感染患者を受け入れている都立病院では、医師や看護師、患者の感染が相次ぎ、救命救急機能の一部を停止する事態に陥るなど、綱渡りの運営が続いています。

労組役員からは、「うちの病院は、一月に中国・武漢からのチャーター便での帰国者も受け入れました。現在は重症の感染患者の治療にあたっています。地域の基幹病院の役割を担っていることから、一日も早く診療体制を戻す必要がありますが、高性能マスクや医療用ガウンなどの供給が不安定になっており、供給量を考えながら節約して使っています」と、悲壮な現場の実態が報告されています。

都立病院は、高度な技術や設備を必要とする検査や治療を行って、地域医療レベルを向上させる責務を担います。また、自治体内の医療関係者の指導・教育を担うなど、都立病院の運営には行政の関与が欠かせません。そうした病院運営を支えているのは昼夜を問わず、職務に精励する職員であることは言うまでもありません。

こうした実態を何も知らない、知ろうともしない一部の著名人からは、政府が決めた一律給付は公務員には不要とする声が上がっています。こうした意図的に批判の対象をすり替え、国民の不安や不平不満を煽って「正義の味方」を気取っても感染拡大には何の効果もありません。

清掃職員や医療従事職員以外にも、多くの職場で多くの職員が不眠不休で職務に精励しています。そのことを知っている数多くの住民の方がいます。そのことに自信と確信を持ち、自治労組合員としての誇りと住民の皆さんとの結束を大きな力として、この難局を必ず乗り越えましょう。

2020年4月27日

自治労東京都本部

中央執行委員長 座光寺 成夫

